

実践事例 1 児童一人一人の調査結果をまとめる活動を通じた学習問題づくり【単元の導入】

単元の指導計画

単元名

第3学年 「はたらく人とわたしたちのくらし-わたしたちのAAマーケットについて考えよう-

(全14時間) [日本文教出版3・4上]

※「AAマーケット」は仮名です。

単元の目標

- 地域の販売の仕事について、スーパーマーケットで働く人々の様子を見学したり、聞き取り調査をしたりして調べ、地域の販売に関する仕事が自分たちの生活を支えていることや販売されている商品を通して他地域と関わっていることが分かり、販売の仕事をする人が消費者の願いに応じた工夫や努力をしていることを考えるようにする。
- 地域の販売の仕事について、理解したことを活用し、これからの町の販売の仕事について考えることを通して、地域社会の一員としての自覚をもつことができるようにする。

学習指導要領の内容（2）

地域の人々の生産や販売について、「ア 地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること。」、「イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり」を見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにすること

単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	観察・資料活用の 技能【技】	社会的事象についての 知識・理解【知】
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々の販売の仕事の様子に関心をもち、意欲的に調べている。 ・地域の人々の販売の仕事と自分たちの生活との関わりを考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々の販売の仕事の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え、表現している。 ・地域の人々の販売の仕事の工夫を自分たちの生活と関連付けて考え、適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観点に基づいて見学したり資料を活用したりして、地域の人々の販売の仕事の様子や消費者の思いについて必要な情報を集め、読み取っている。 ・調べたことを白地図やワークシートなどにまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域には販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていることを理解している。 ・地域の人々の販売に見られる仕事の特色や国内の他地域などとの関わりを理解している。

単元の構造（全14時間）

（課外） 家庭での買い物調べ

7日間のうちに買い物した店や商品、理由などを調べる。

（第1時） 買い物調べの結果をまとめて、大きなめあて（学習問題）をつくろう。

買い物調べの結果を町の白地図にまとめる。

スーパーマーケットに多くの人が買い物に行っている理由について予想する。

（学習問題Ⅰ）スーパーマーケットに人が集まるひみつについて調べよう。〔知識や概念の習得〕

（第2時） スーパーマーケットに人が集まるひみつをよそうしよう。

児童の予想を基に調べる視点をつくり、学習計画を立てる。

※調べる視点（予想されるひみつ）「商品」「しせつ」「人を集める」「はたらく人」

（第3時） スーパーマーケットの見学のために、見学計画を立てよう。

見学の仕方を知り、調べる視点ごとにグループを編成する。

グループの役割に応じた見学、インタビューの計画を立てる。

（第4・5時） スーパーマーケットを見学しよう。【見学】

見学することで、予想を確かめたり、新しいひみつを見付けたりする。

（第6時） 4つのひみつについて、見学したことをまとめよう。

調べたグループ別に調べたことをまとめて、発表する準備をする。

（第7時） スーパーマーケットのよさをまとめ、学習問題Ⅰのまとめを考えよう。

販売の仕事をする人は消費者の願いに応じた工夫や努力をしていることを知る。

地域の販売に関する仕事が自分たちの生活を支えていることや販売されている商品を通して他地域と関わっていることが分かる。

自分たちの町にもAAマーケットというスーパーマーケットがあることを知る。

（第8時） AAマーケットはどんなスーパーマーケットだろう。

※AAマーケットを利用するゲストティーチャー（以下、GT）の話聞く。

お年寄りの方が、「車がない」「店が遠い」等の理由で利用していることを知る。

自分たちの町で困っている人がいることに気付く。

（学習問題Ⅱ）わたしたちのAAマーケットについて考えよう。〔習得した知識や概念の活用〕

（第9・10時） AAマーケットを見学しよう。【見学】

調べる視点ごとに、似ている点や違う点を見付ける。

同じスーパーマーケットでも、店によって違いがあることを知る。

（第11時） AAマーケットで見学したことをまとめ、個人でていあん書を作ろう。

AAマーケットに関わる方の思いや願いを基に何か取組ができないかを考える。

（第12時） 4つのひみつについてグループごとに取組を決めよう。

取組についての話し合いに向け、グループごとに考えをまとめる。

（第13時） AAマーケットをもり上げるためのていあん書をクラスで作ろう。

「実現可能」「効果」の視点から、取組の価値を吟味し、クラスの提案書を作る。

（第14時） クラスのていあん書をもう一度見直し、考えをまとめよう。

提案書を読んだGTの話をもとにクラスで提案書を見直す。

地域の販売の仕事について、理解したことを活用し、これからの自分たちの町の販売の仕事について考えることを通して、地域社会の一員としての自覚をもつことができる。

授業改善の視点（○）と取り入れた具体的な手立て

○児童が目的をもって複数の情報を関連付けて考える活動を仕組む。

「つかむ」過程

- ① 課外に児童が各自で調べた「買い物調べ」の結果を基に、学級全体で白地図にまとめる活動を取り入れることで、結果として表れる情報に関心をもたせる。また、まとめる前に、「どの店の種類が多いと思うか」を問いかけ、児童なりの予想を立てさせることで、学級全体でまとめる目的を明らかにし、白地図にまとめる活動への意欲付けを行うようにする。
- ② まとめた白地図に示される複数の情報を基に、「どの店の種類が多いか」という目的に立ち戻らせることで、「スーパーマーケットに買い物に行くことが多い」ことに気付かせる。その上で、それは、どうしてかという理由を予想させることで、白地図から読み取れる大きい道路の近くであることや自宅から近いこと、各自が「買い物調べ」で調べた買物をした理由など、資料から必要な情報を読み取り、関連付けて考えるようにする。
- ③ 白地図にまとめる際には、店の種類を色分けしたり、1軒につき1枚のシールを貼らせたりすることで、児童が視覚的に情報を読み取りやすくする。
- ④ 児童の主体的な学習になるように、学習活動ごとに児童に予想させる発問を行い、予想や結果に関する問い返しを行うことで、児童の疑問を表出させ、児童の発言やつぶやきの言葉を使って学習問題Ⅰをつくる。

「調べる」過程

- ① 児童の予想を基に、あらかじめ調べる視点を定めることで、見学を通して調べる目的と見通しをもたせる。こうすることで、自分の見付けたひみつがどのような視点に基づく工夫なのかを関連付けて考えることができるようにする。
- ② 学習問題Ⅰについて調べたことをまとめる中で、「なぜ○○だと良いのか」や「どうして○○だといけないのか」等、スーパーマーケットのよさを考えさせる問いかけをすることで、児童が調べた事象を基に、販売者や消費者などの立場に立ち、情報を関連付けて考えることができるようにする。
- ③ 学習問題Ⅰをまとめる際には、販売者を「お店の方」、消費者を「買う人」といった言葉を使って、まとめさせることで、考えたことを条件に合わせて自分の言葉で表現できるようにする。

○児童が知り得た知識、技能を「活用」して考える活動を仕組む。

「考え・まとめる」過程

- ① 学習問題Ⅰの解決後、児童の買い物調べの結果から、町のスーパーマーケットであるAAマーケットを利用する家庭が少ないことを示すことで、町の現状に目を向けさせ、学習問題Ⅱ「わたしたちのAAマーケットについて考えよう」を設定する。
- ② 学習問題Ⅱについて、学習問題Ⅰの解決で使った4つの視点を基に、AAマーケットを見学し、利用の多いスーパーマーケットと比較させることで、町の活性化に向けた提案を考える活動へと導き、学習問題Ⅰの解決で知り得た知識を「活用」して考えさせる。
- ③ 町の活性化に思考参加させることで、地域社会の一員としての自覚を育成することができるようにする。